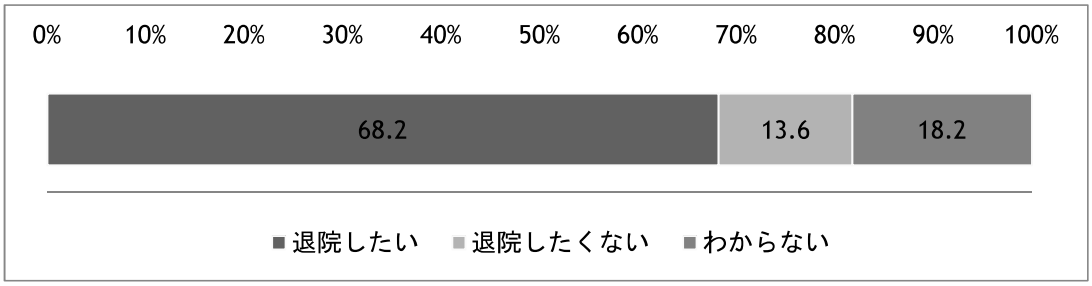
４）退院希望の有無

68.2%が退院を希望している。 (n=22)

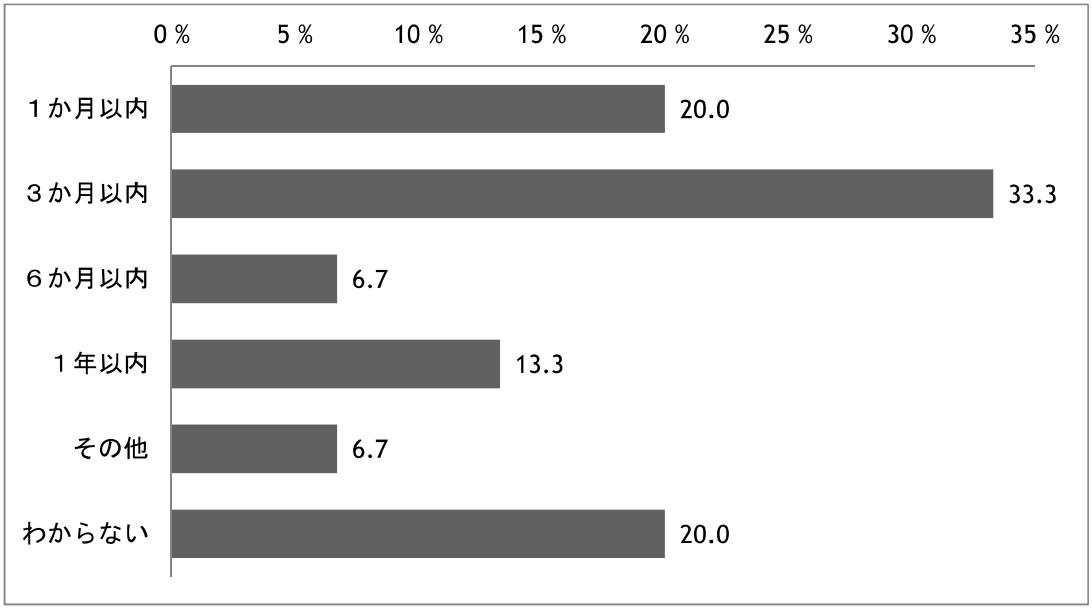


【入院期間と退院希望の関係】

	退院したい	退院したくない	わからない	合計(人)
１か月～３か月未満	3	0	0	3
３か月～６か月未満	1	0	0	1
６か月～１年未満	1	0	0	1
１年～５年未満	3	0	1	4
５年～10 年未満	1	0	1	2
10 年～20 年未満	2	0	0	2
20 年以上	0	2	2	4
わからない	3	1	0	4
無回答	1	0	0	1
合計(人)	15	3	4	22

５）退院時期の希望

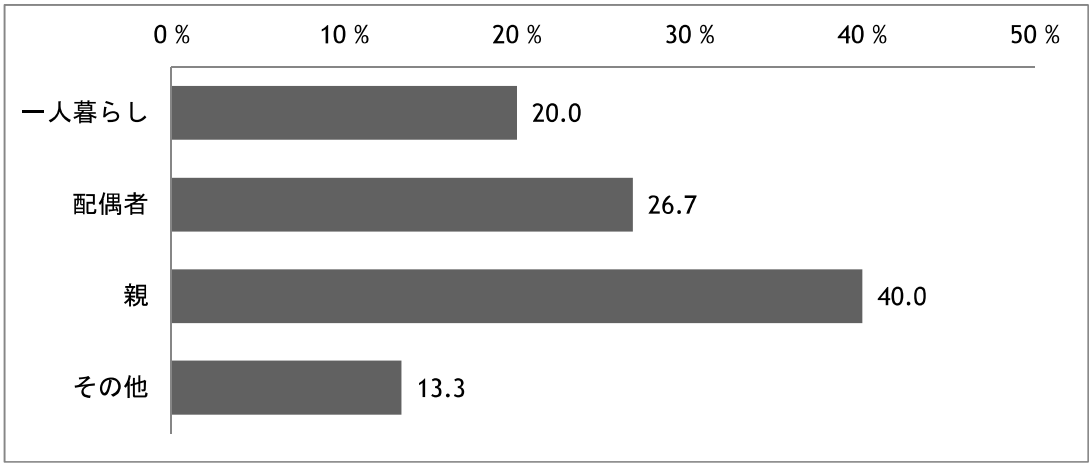
(n=15)



６）退院後の同居者の希望

退院後は７割程度の人が家族との暮らしを希望している。

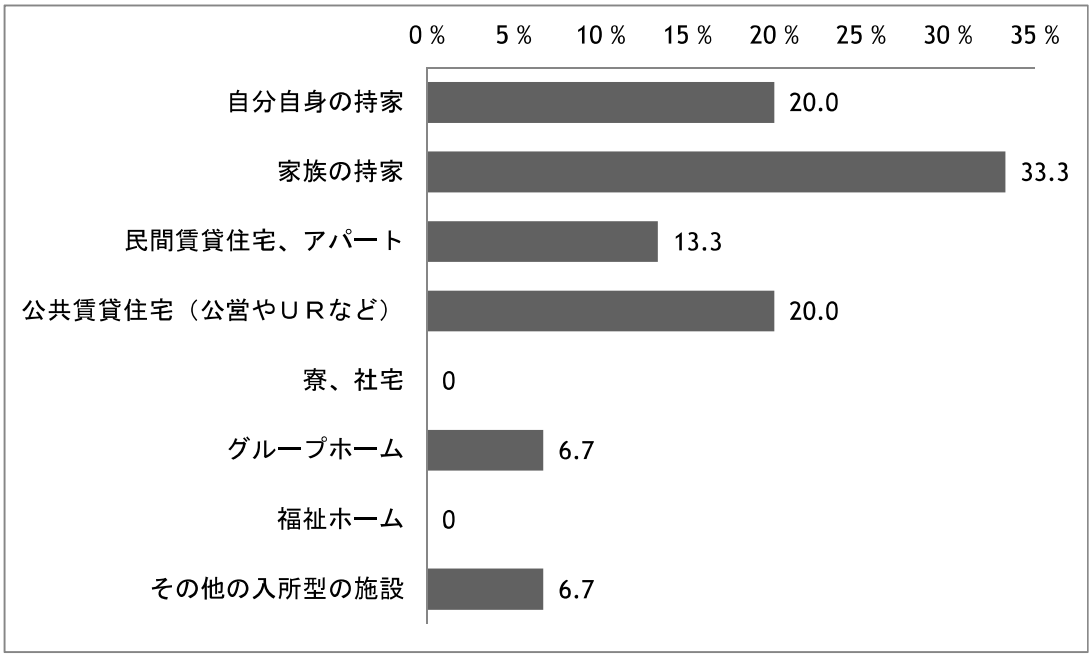
(n=15)



７）退院後生活したい場所

退院後は家族や自分の持家への帰宅を希望する人が最も多く（53.3%）、次いで「公共賃貸住宅」（20%）「民間賃貸住宅、アパート」（13.3%）の順に多くなっている。

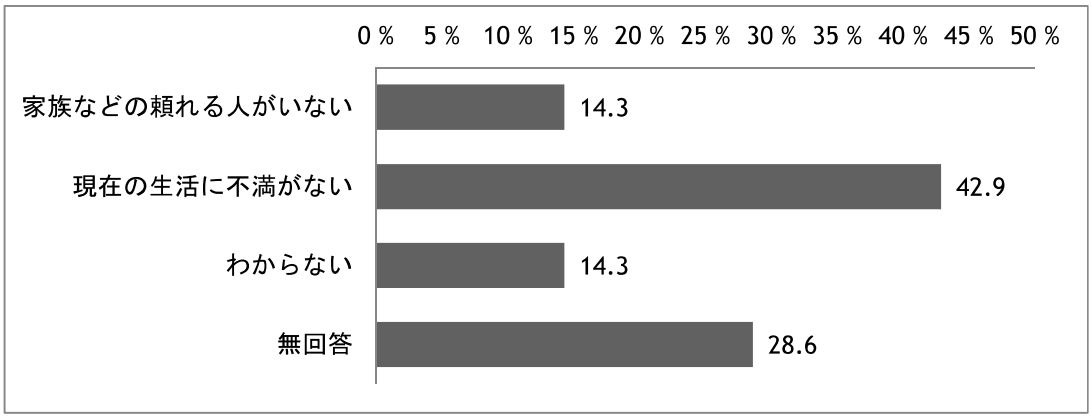
(n=15)



８）退院したくない理由

13.6%（７名）が「退院したくない」と回答しており、その理由として「現在の生活に不満がない」「家族などの頼れる人がいない」を挙げていた。

(n=7)

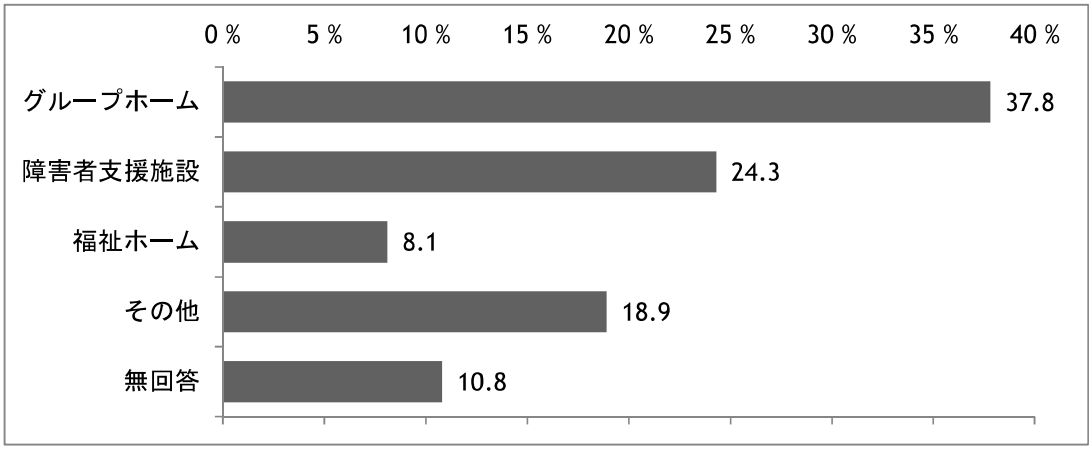


福祉施設に入所している人

１）入所中の施設

福祉施設入所中である場合、具体的にはグループホームと障害者支援施設である場合が多い。

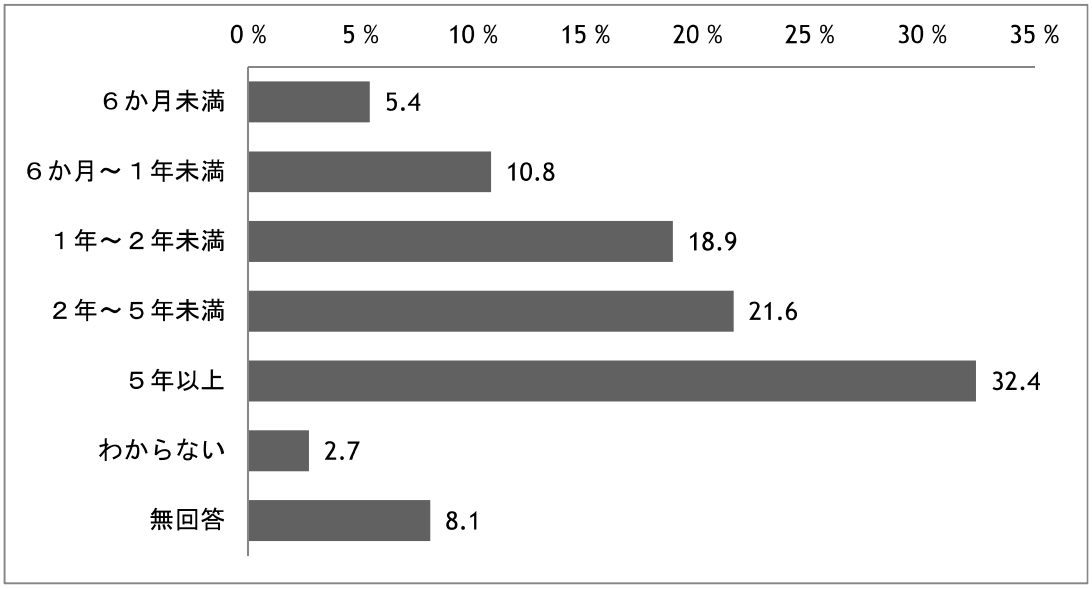
(n=37)



２）施設入所期間

施設入所期間は、５年以上が 32.4%と最も多い。

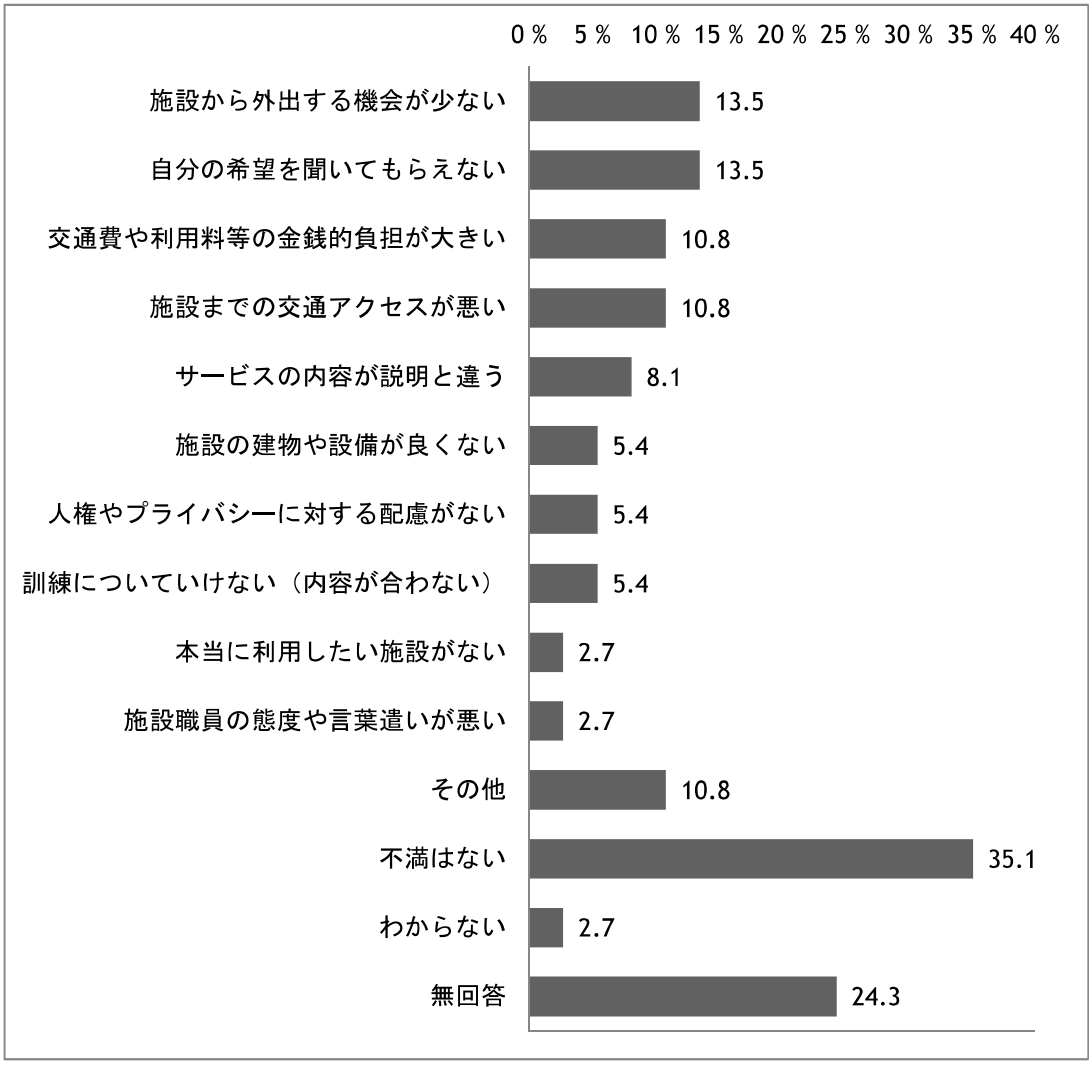
(n=37)



３）入所施設の不満

入所中の施設に対する不満については、「不満はない」が 35.1%と最も多く、次いで「施設から外出する機会が少ない」「自分の希望を聞いてもらえない」が多い回答であった。

〈複数回答〉(n=52)



「その他」の具体例

■体の異変のとき、即判断対処して欲しい。少し遅い。

■当番制がきつい

■入所者間のトラブル

■ホームの利用者との付き合い

■利用者がうるさい。利用者からバカにされる。

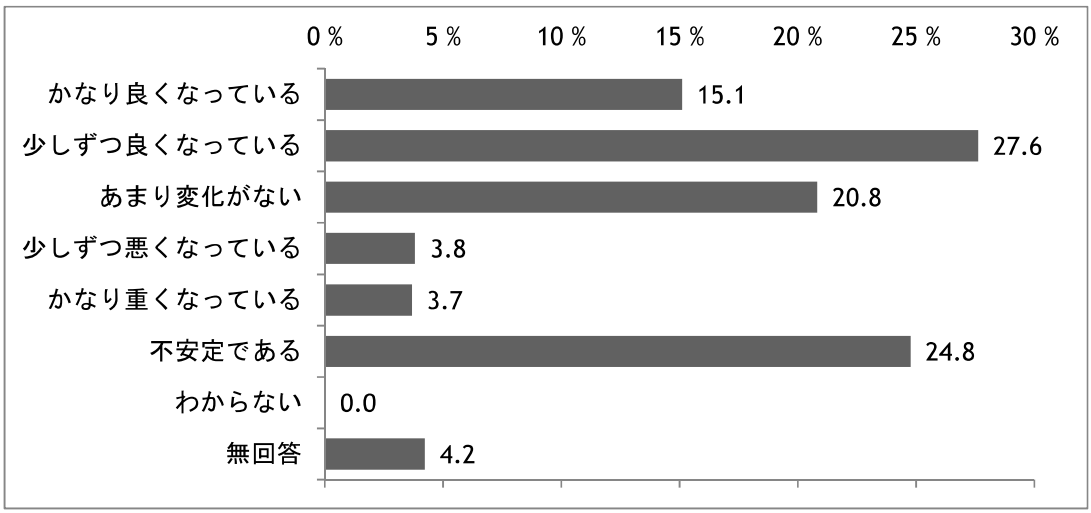
５．心身の状況について（精神障害者のみ）

今の心の状態について尋ねたところ、「かなり良くなっている」「少しずつ良くなっている」「あまり変化がない」を合わせると、63.5%の回答者が比較的落ち着いた状態であることがわかる。ただし、「不安定である」という回答が約 25%であり、精神疾患特有の不安定性が垣間みられる。心の状態に応じた日常生活動作（ADL）の変化については、36.1%が「あまり変化がない」と答えている。

１）今の心の状態

今の心の状態については、「かなり良くなっている」「少しずつ良くなっている」「あまり変化がない」が合わせて 63.5%であった。

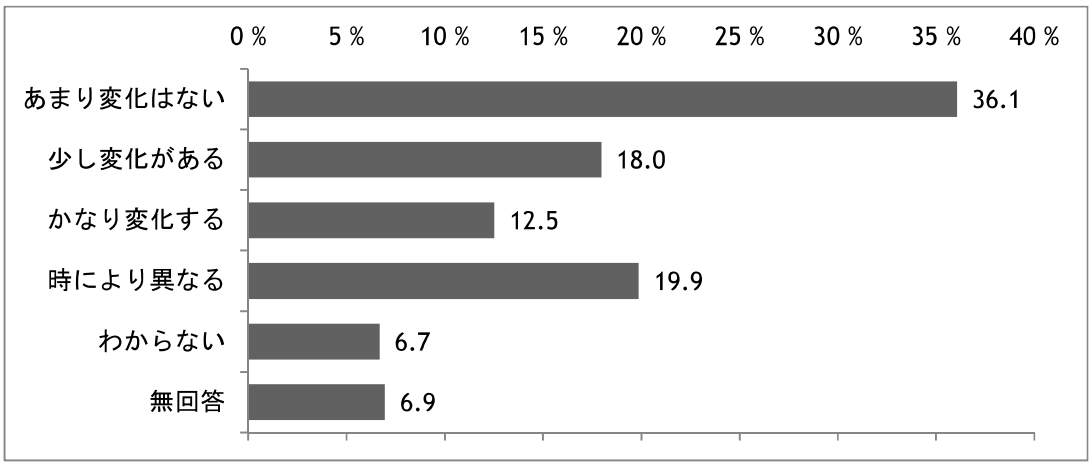
(n=735)



２）心の状態に応じた ADL の変化

心の状態に応じた ADL の変化については「あまり変化はない」という回答が最も多かった。

(n=735)



６．暮らしについて

回答者の ADL については、特に身体障害者や難病患者など「一人でできる」の割合が高い障害種もあるが、障害が重度である場合に限定してみると、限定しない場合と比較して「一人でできる」人の割合が全体的に少なくなっている。たとえば「外出」は一人でできる人の割合は、知的障害者全体では 44.8%であるが、重度に限定すると 30.2%、精神障害者全体では 69.8%であるが、重度に限定すると 11.7%となっている。重度心身障害者では、いずれの項目も８～９割の人が介助を必要としていた。

手段的日常生活動作（IADL）に関しては、知的障害者や発達障害者の場合、障害の程度に関わらず、ほとんどの項目で「助言や援助が必要」という人が半数以上を占めている。重度の障害者に限定すると IADL について「一人でできる」の割合が大幅に下がる。重度心身障害者の IADL では、ほとんどの項目で「全面的に助言や援助が必要」という回答が８割程度となっている。

介助者については、主たる介助者である母親や配偶者の年齢は、障害者本人の年齢傾向が全体的に低い障害児や発達障害者を除き、５割以上が 60 歳を超え、約 25%が 70 歳を超えるなど、高齢化の傾向がみられる。主たる介助者は、高齢化もあり約半数が健康状態に不安を抱えているが、60 歳代の約４割、70 歳代の約１割が就労しつつ介助をしている状況が浮かび上がっている。今後の生活は、自宅での夫婦や家族との暮らしを望む声が多くなっている。地域生活を送る上で必要なこととして、「緊急時や困ったときにいつでも相談でき、必要な支援を受けることができる体制」や「経済的な負担の軽減」「家族の負担軽減」という回答が多くなっている。回答者の日中の過ごし方は障害種別により特徴は異なるが、特に精神障害者の場合は、18～64 歳に限定しても、自宅で過ごす人の割合が６割と高くなっている。

※日常生活動作（ADL）とは、人間が毎日の生活を送るための基本的動作群のことであり、手段的日常生活動作（IADL）とは、ADL とは別に、家事動作や管理能力、交通機関の利用など、生活の中の応用的な動作群のことである。

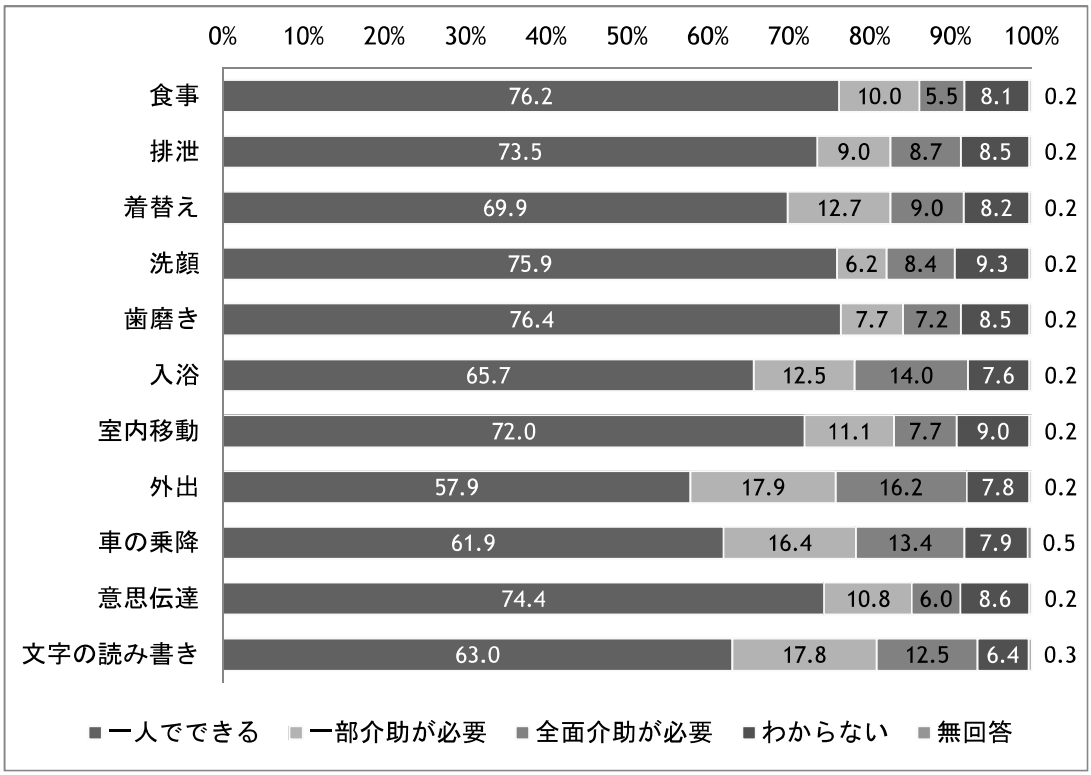
１）介助の必要性；日常生活動作（ADL）

回答者の ADL については、特に身体障害者や難病患者など「一人でできる」の割合が高い障害種もあるが、障害が重度である場合に限定してみると、限定しない場合と比較して「一人でできる」人の割合が全体的に少なくなっている。

①身体障害者

いずれの項目においても、介助を必要としていない人の割合が約６～７割程度と高かったが、外出や車の乗降、文字の読み書きでは介助が必要なケースが見られた。

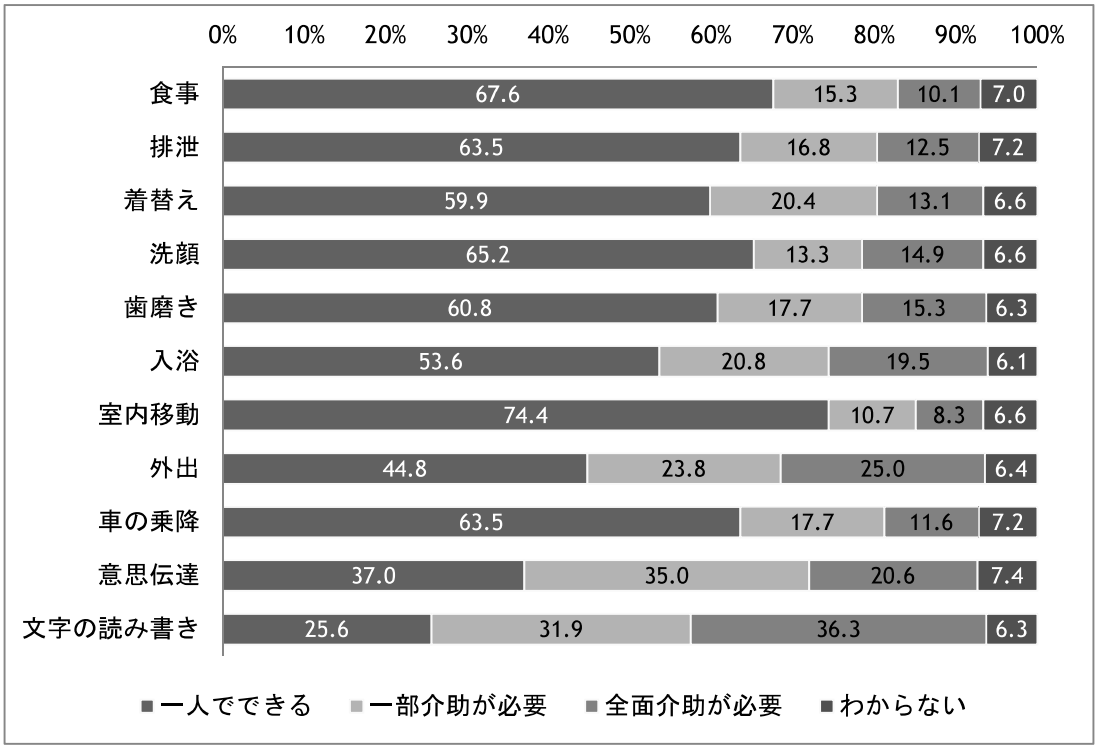
(n=1284)



②知的障害者

特に外出、意思伝達や文字の読み書きで、介助が必要な場合が多くなっている。

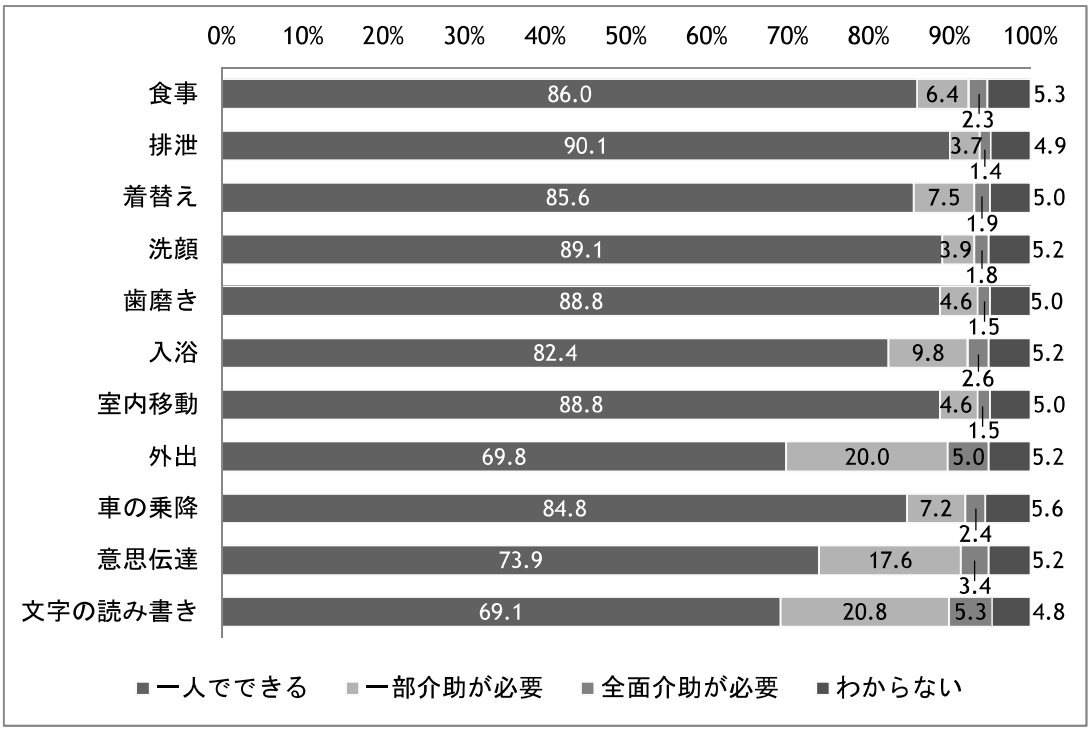
(n=543)



③精神障害者

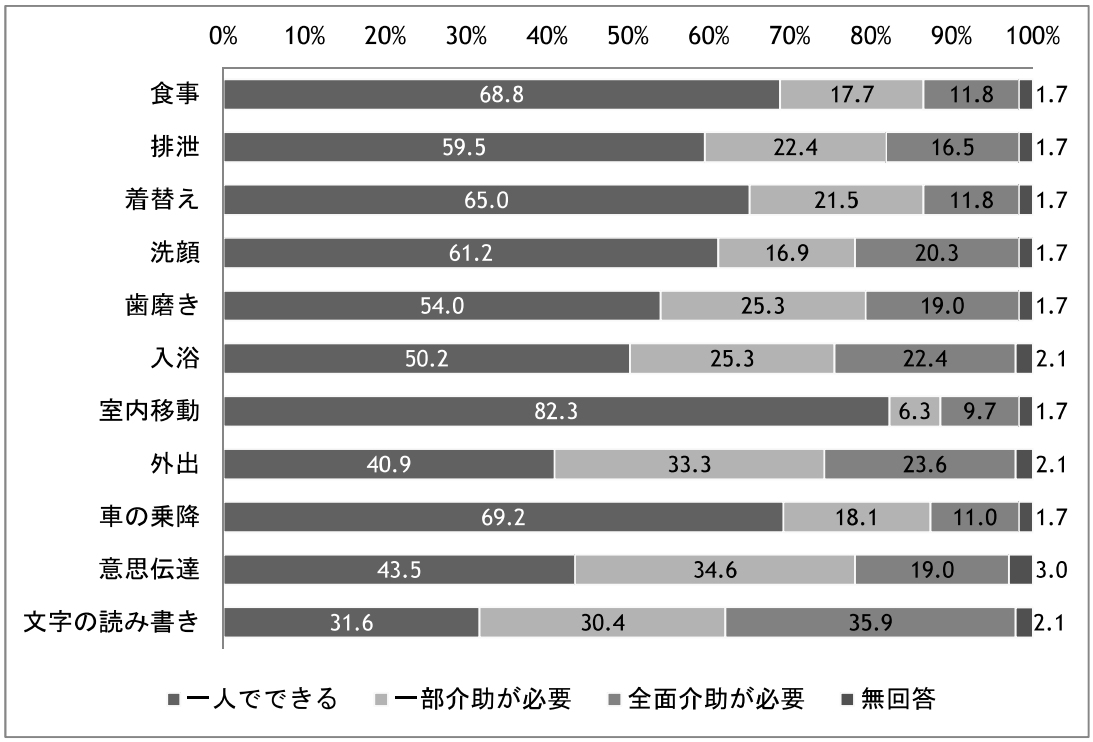
他障害と比較して、全体的に自立度が高いが、一部、外出、意思伝達や文字の読み書きで介助が必要なケースがみられる。

(n=735)



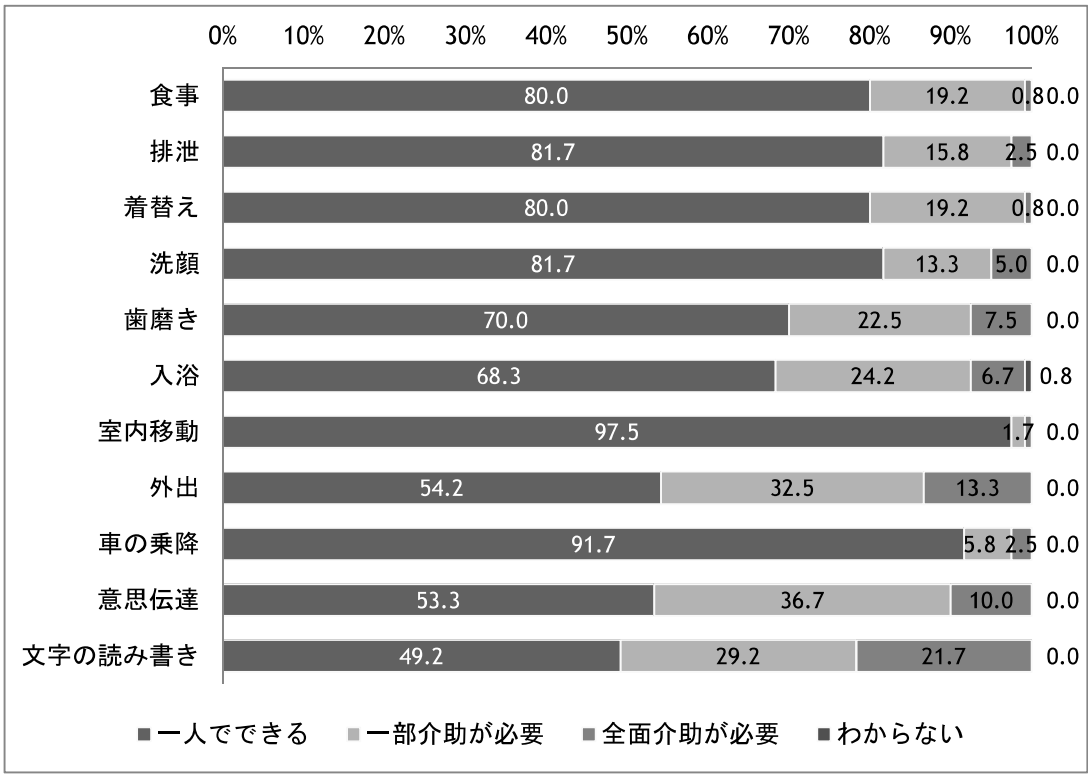
④障害児

外出、意思伝達や文字の読み書きで、介助が必要な場合が多い。　(n=237)



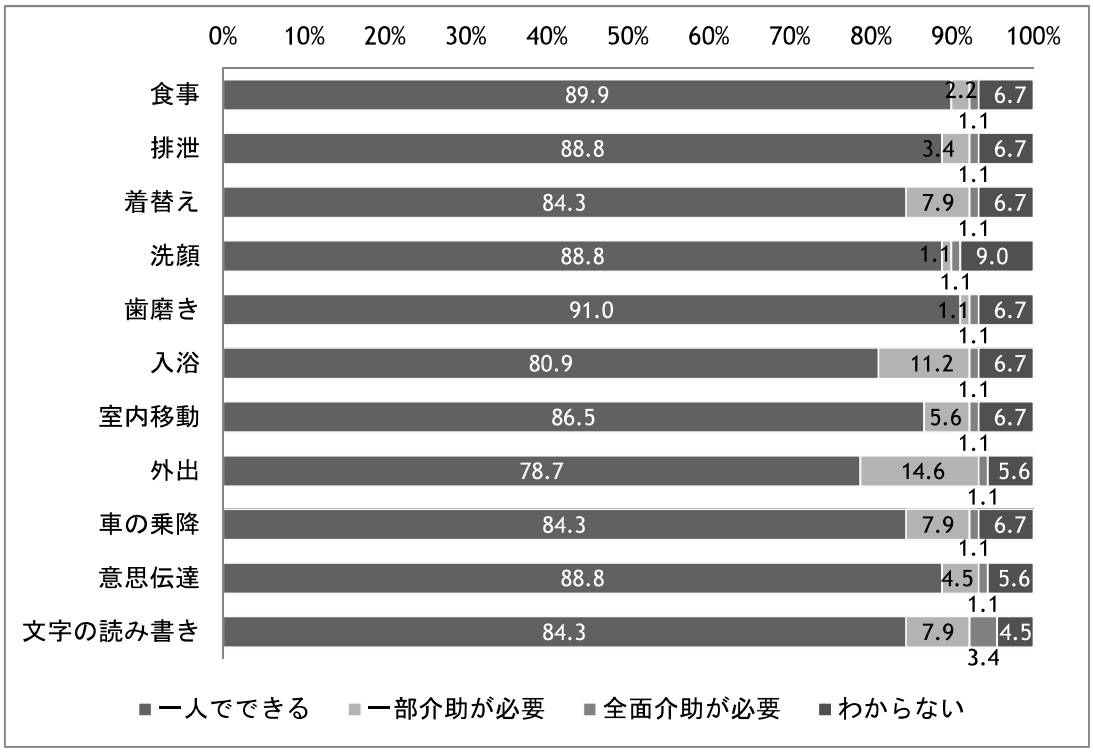
⑤発達障害者

外出、意思伝達や文字の読み書きで、介助が必要な場合が多い。　(n=120)



⑥難病患者

他障害と比較しても全体的に ADL が高く、介助が必要な場合が少ない。　(n=89)

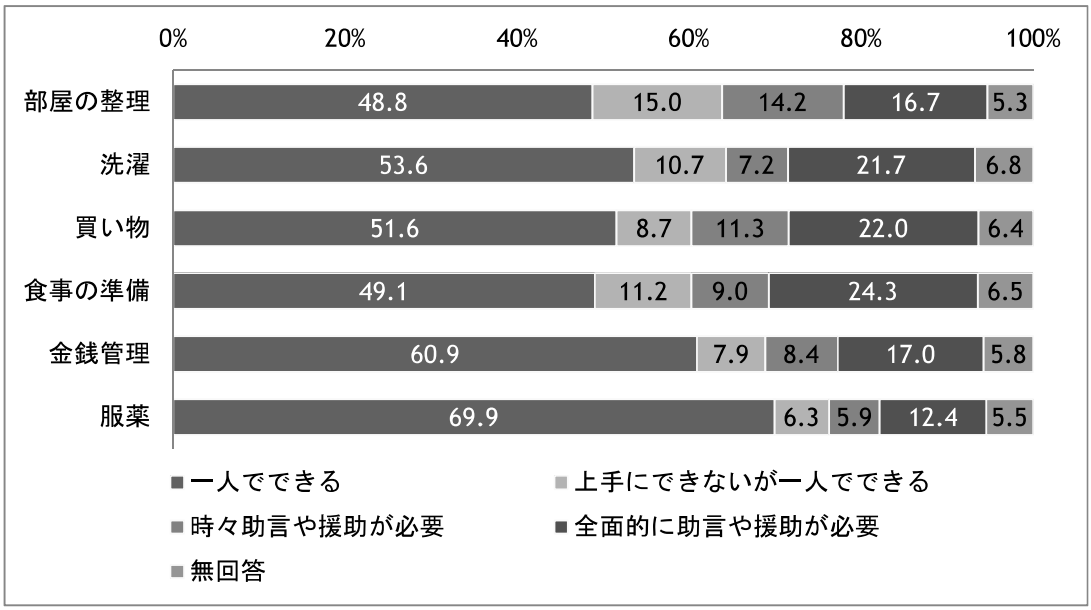


２）支援の必要性：手段的日常生活動作（IADL）

手段的日常生活動作（IADL）に関しては、知的障害者や発達障害者の場合、障害の程度の関わらず、ほとんどの項目で「助言や援助が必要」という人が半数以上を占めている。

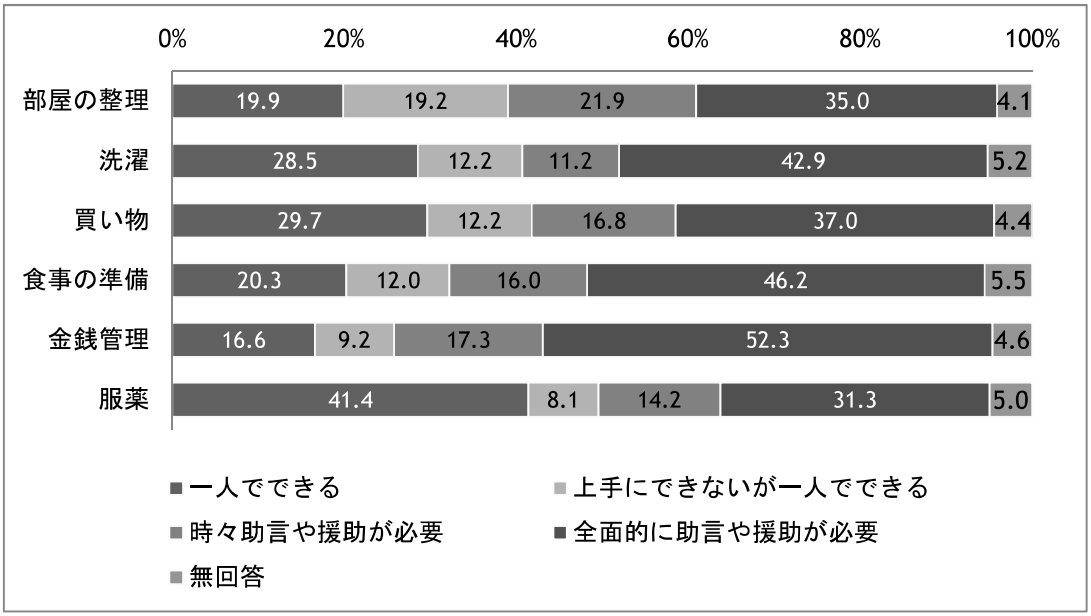
①身体障害者

金銭管理と服薬のみが、一人でできる割合が６割を上回った。 (n=1284)



②知的障害者

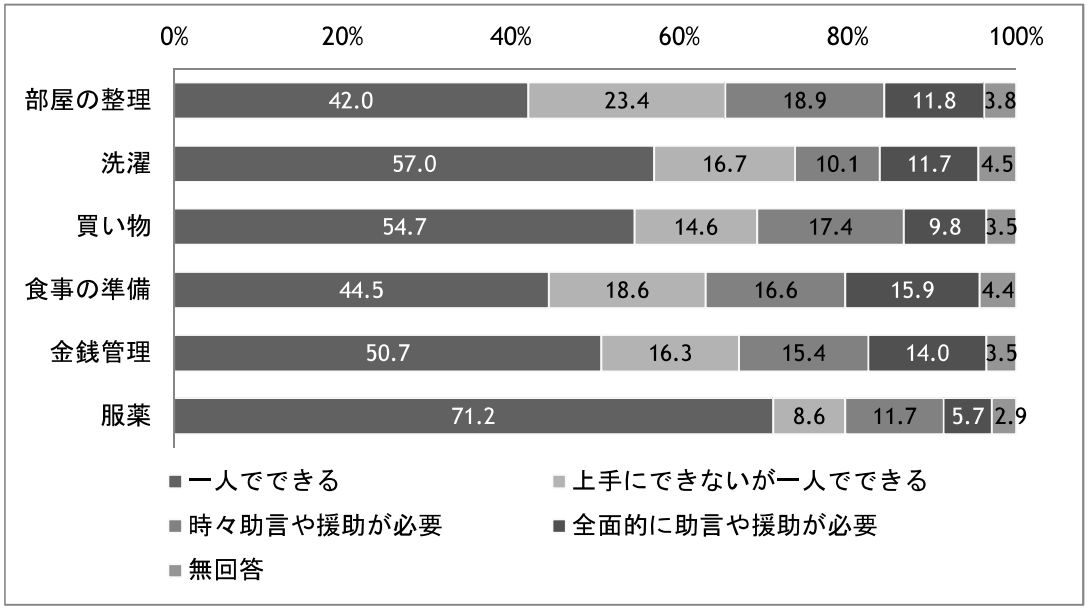
複数の項目で「時々助言や援助が必要」「全面的に助言や援助が必要」という人が半数以上を占めている。特に金銭管理は支援が必要な場合が多くなっている。(n=543)



③精神障害者

ADL と比べると全体的に低い傾向がみられる。特に部屋の整理、食事の準備、金銭管理は支援が必要な場合が多い。

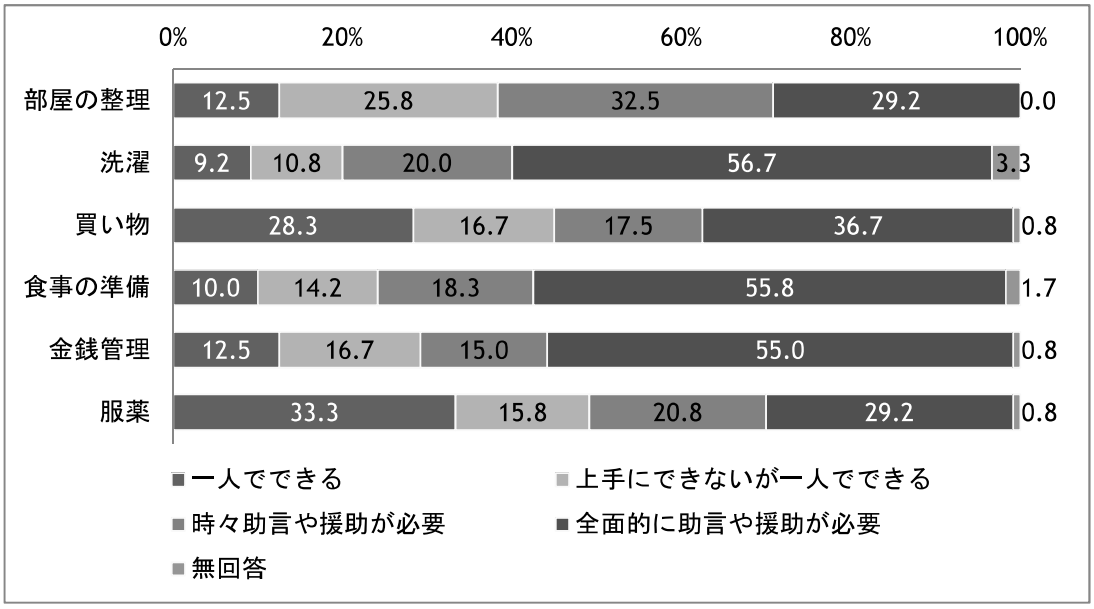
(n=735)



④発達障害者

複数の項目で「時々助言や援助が必要」「全面的に助言や援助が必要」という人が半数以上を占めている。洗濯、食事の準備、金銭管理では全面的な介助が必要なことが多い。

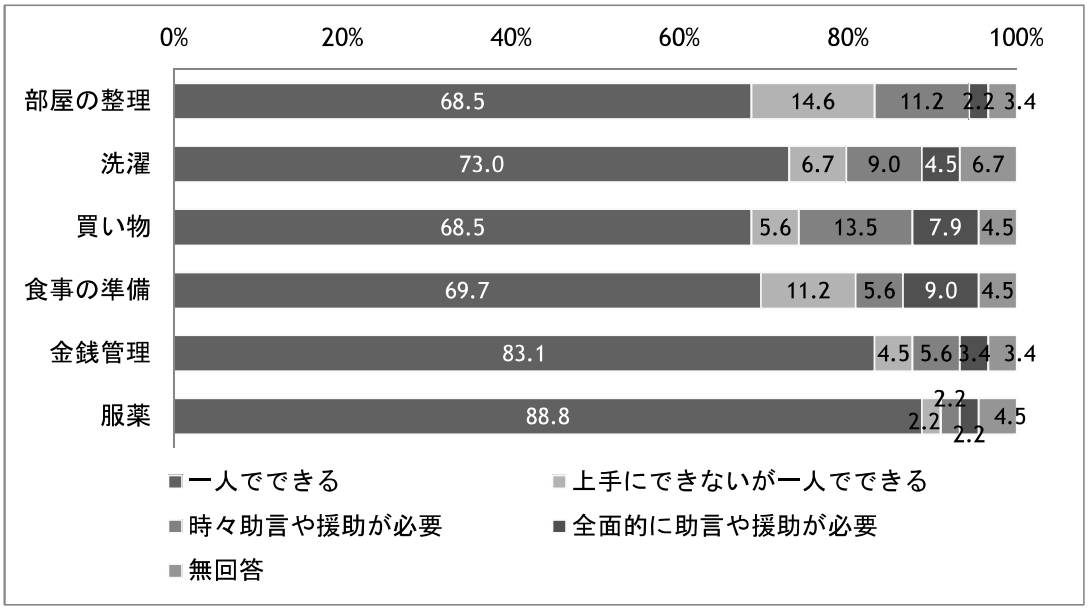
(n=120)



⑤難病患者

他障害と比較すると一人でできる割合が高い。

(n=89)



３）介助の必要性：重度障害者の日常生活動作（ADL）

障害等級を重度に限定してみると、限定しない場合と比較して「一人でできる」の人の割合が全体的に少なくなる。たとえば「外出」は一人でできる人の割合は、知的障害者全体では 44.8%であったが、重度に限定すると 30.2%、精神障害者全体では 69.8%であったが、重度に限定すると 11.7%であった。さらに重度心身障害者では、いずれの項目も８～９割の人が介助を必要としていた。

備考１）身体障害者、知的障害者、精神障害者、障害児のうち、それぞれ身体障害者手帳１－２級保持者、療育手帳 A1-A2 保持者、精神障害者保健福祉手帳１級保持者、身体障害者手帳１－２級かつ療育手帳 A1-A2 保持者、に限定している。発達障害者、難病患者については該当者が少ないため含めていない。

備考２）一部手帳の重複が含まれる。　(%)

		重度 身体障害 (n=823)	重度 知的障害 (n=342)	重度 精神障害 (n=43)	重度 心身障害 (n=121)
食事	一人でできる	64.0	46.5	38.0	17.4
	一部介助が必要	14.2	14.0	29.8	17.4
	全面介助が必要	15.6	27.9	26.6	61.2
	わからない	6.2	11.6	5.6	4.1
トイレ	一人でできる	60.6	44.2	30.1	9.9
	一部介助が必要	12.0	14.0	32.2	14.9
	全面介助が必要	20.5	30.2	32.2	70.2
	わからない	6.8	11.6	5.6	5.0
着替え	一人でできる	56.4	41.9	27.2	9.1
	一部介助が必要	17.4	14.0	35.4	18.2
	全面介助が必要	20.4	32.6	33.0	70.2
	わからない	5.8	11.6	4.4	2.5
洗顔	一人でできる	64.2	48.8	33.0	14.9
	一部介助が必要	9.6	9.3	23.1	10.7
	全面介助が必要	19.3	27.9	39.2	71.1
	わからない	6.9	14.0	4.7	3.3
歯磨き	一人でできる	64.6	48.8	24.0	11.6
	一部介助が必要	11.7	16.3	31.9	15.7
	全面介助が必要	17.5	25.6	40.1	69.4
	わからない	6.2	9.3	4.1	3.3

		重度 身体障害 (n=823)	重度 知的障害 (n=342)	重度 精神障害 (n=43)	重度 心身障害 (n=121)
入浴	一人でできる	51.2	39.5	17.3	7.4
	一部介助が必要	15.6	16.3	31.3	6.6
	全面介助が必要	27.3	37.2	47.7	81.8
	わからない	5.3	7.0	3.2	3.3
	無回答	0.6	0.0	0.6	0.8
室内移動	一人でできる	61.4	55.8	52.3	19.8
	一部介助が必要	15.7	16.3	21.9	24.8
	全面介助が必要	16.3	20.9	20.8	52.1
	わからない	6.7	7.0	5.0	3.3
外出	一人でできる	45.3	30.2	11.7	7.4
	一部介助が必要	18.2	14.0	31.6	9.1
	全面介助が必要	30.4	41.9	52.3	80.2
	わからない	6.1	14.0	4.4	3.3
車の乗降	一人でできる	50.2	44.2	35.4	9.9
	一部介助が必要	19.1	11.6	31.3	19.0
	全面介助が必要	24.3	27.9	28.1	66.9
	わからない	6.2	14.0	4.7	3.3
	無回答	0.2	2.3	0.6	0.8
意思伝達	一人でできる	63.2	30.2	12.0	10.7
	一部介助が必要	14.9	23.3	34.8	16.5
	全面介助が必要	15.2	27.9	47.4	67.8
	わからない	6.3	16.3	5.3	0.0
	無回答	0.4	2.3	0.6	5.0
文書の読み書き	一人でできる	48.1	25.6	6.4	5.8
	一部介助が必要	20.8	18.6	14.9	9.1
	全面介助が必要	24.8	41.9	74.0	81.8
	わからない	6.1	11.6	4.1	3.3
	無回答	0.2	2.3	0.6	0.0

４）援助の必要性；重度障害者の手段的日常生活動作（IADL）

IADL においても、重度の障害者に限定すると「一人でできる」の割合が大幅に下がる。たとえば買い物を「一人でできる」と回答した人の割合は精神障害者全体では 54.7%であったが、重度に限定すると 6.5%であった。さらに重度心身障害者ではほとんどの項目で「全面的に助言や援助が必要」という回答が８割程度になっている。

備考１）身体障害者、知的障害者、精神障害者のうち、それぞれ身体障害者手帳１−２級保持者、療育手帳 A1-A2 保持者、精神障害者保健福祉手帳１級保持者に限定している。発達障害者、難病患者については該当者が少ないため含めていない。

備考２）一部手帳の重複が含まれる。　(%)

		重度 身体障害 (n=765)	重度 知的障害 (n=293)	重度 精神障害 (n=43)	重度 心身障害 (n=99)
部屋の整理	一人でできる	38.2	16.3	6.5	6.1
	上手にできないが一人でできる	13.2	14.0	6.5	2.0
	時々助言や援助が必要	15.6	9.3	15.4	7.1
	全面的に助言や援助が必要	27.8	53.5	66.6	78.8
	無回答	5.2	7.0	5.1	6.1
洗濯	一人でできる	40.7	23.3	6.5	6.1
	上手にできないが一人でできる	10.2	7.0	4.4	3.0
	時々助言や援助が必要	8.1	9.3	4.8	1.0
	全面的に助言や援助が必要	34.2	51.2	78.8	82.8
	無回答	6.8	9.3	5.5	7.1
買い物	一人でできる	39.3	23.3	6.5	7.1
	上手にできないが一人でできる	8.5	0.0	5.8	3.0
	時々助言や援助が必要	12.4	16.3	8.5	3.0
	全面的に助言や援助が必要	33.1	51.2	73.4	78.8
	無回答	6.7	9.3	5.8	8.1
食事の準備	一人でできる	36.5	16.3	5.8	5.1
	上手にできないが一人でできる	9.3	2.3	3.4	3.0
	時々助言や援助が必要	11.4	7.0	6.8	4.0
	全面的に助言や援助が必要	36.7	65.1	78.5	80.8
	無回答	6.1	9.3	5.5	7.1

		重度 身体障害 (n=765)	重度 知的障害 (n=293)	重度 精神障害 (n=43)	重度 心身障害 (n=99)
金銭管理	一人でできる	47.8	16.3	5.8	6.1
	上手にできないが一人でできる	8.4	7.0	2.0	2.0
	時々助言や援助が必要	9.9	9.3	4.1	3.0
	全面的に助言や援助が必要	27.7	55.8	83.3	82.8
	無回答	6.1	11.6	4.8	6.1
服薬	一人でできる	57.5	32.6	16.0	10.1
	上手にできないが一人でできる	7.2	9.3	7.5	7.1
	時々助言や援助が必要	8.1	9.3	11.3	3.0
	全面的に助言や援助が必要	21.4	41.9	61.4	74.7
	無回答	5.8	7.0	3.8	5.1

５）介助者について

①主たる介助者

介助者は、概ね「母親」であることが多いが、身体障害者の場合は、主たる介助者として 20%程度「子ども」が含まれていた。

〈複数回答〉(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
配偶者	24.0	3.1	21.0	0.0	0.0	37.1
父	4.4	24.5	9.1	44.7	57.5	2.2
母	10.6	49.2	23.8	74.3	93.3	7.9
子ども	19.2	2.2	9.4	0	0.0	10.1
祖父母	0.1	2.6	0.7	13.1	14.2	2.2
兄弟姉妹	4.6	15.3	8.0	12.7	18.3	5.6
その他親族	1.6	0.9	2.2	1.3	0.8	1.1
隣人･友人	1.7	1.7	1.6	0.4	0.8	0.0
ホームヘルパー	9.2	6.6	4.8	1.3	2.5	3.4
施設の職員	10.9	33.3	9.8	8.0	13.3	1.1
民間介助サービス(自費)	2.3	1.3	0.7	0.4	0.8	1.1
ボランティア	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0
雇用人(家政婦)	0.2	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0
その他	2.7	2.8	3.1	3.8	2.5	0.0
必要だがいない	3.2	1.5	4.4	0.0	0.0	0.0
介助不要	31.9	13.6	28.4	20.3	6.7	47.2
無回答	7.6	6.1	5.2	3.0	0.0	7.9

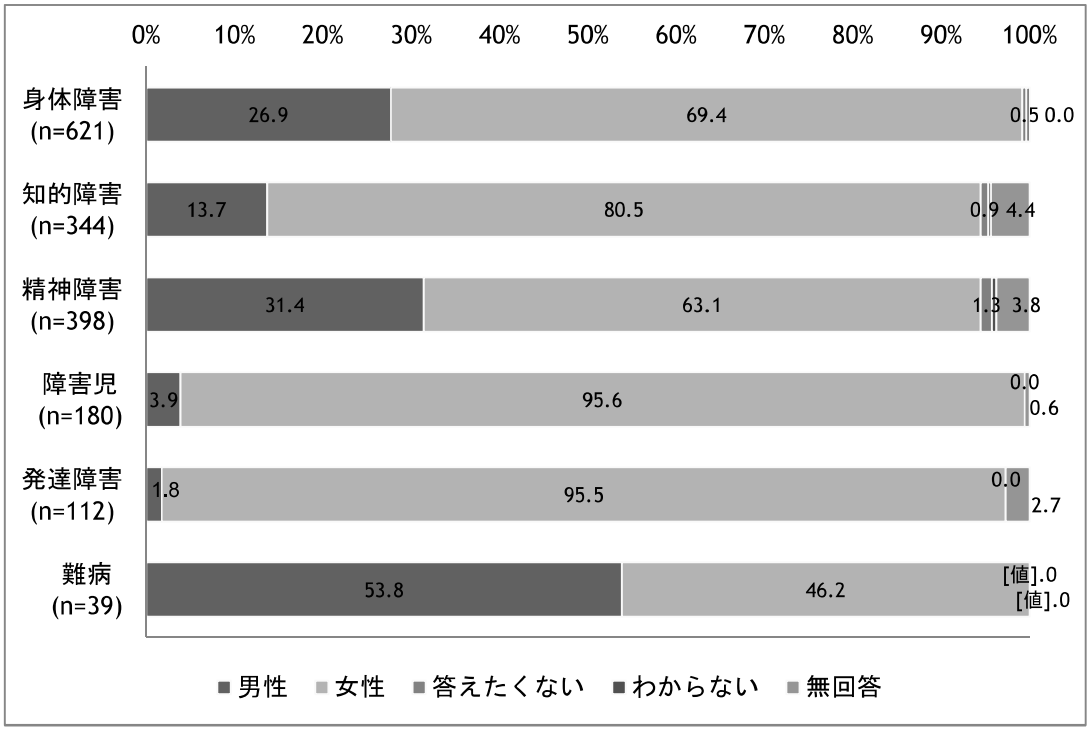
②主たる介助者の年齢

障害者本人の年齢傾向が全体的に低い障害児や発達障害者を除き、５割以上が 60 歳を超え、約 25%が 70 歳を超えるなど、高齢化の傾向がみられる。

(%)

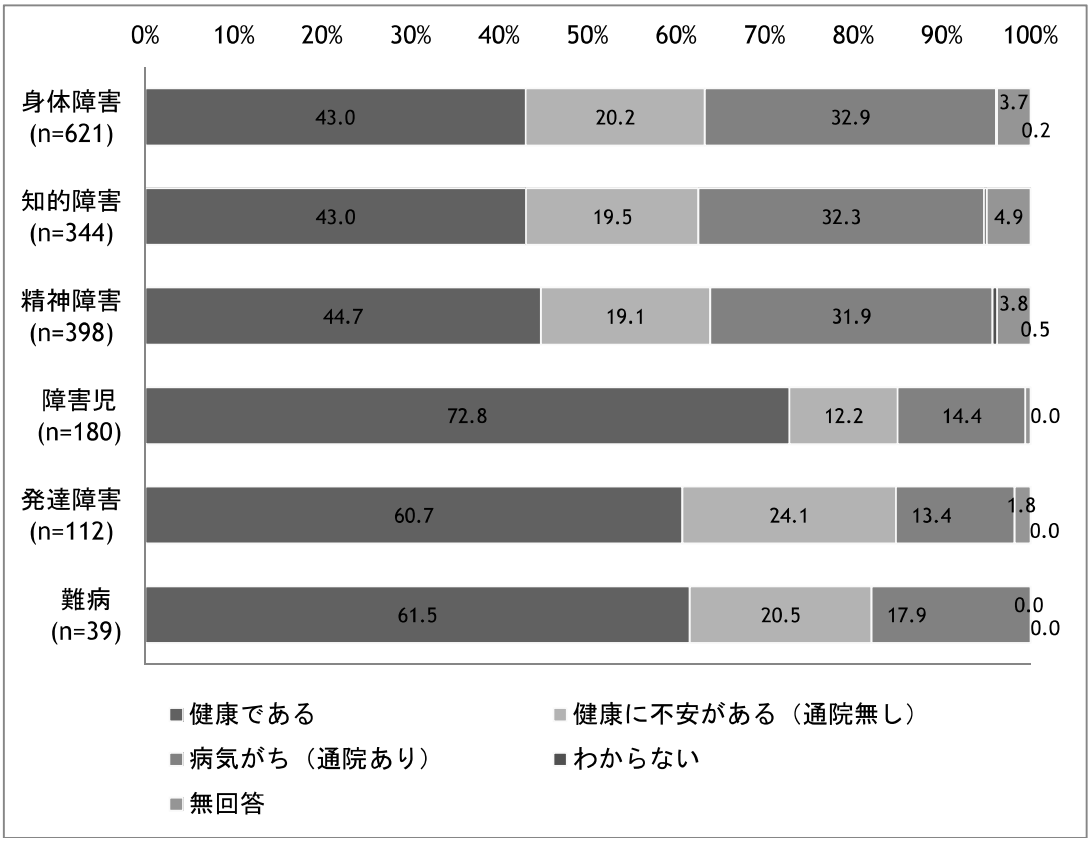
	身体障害 (n=621)	知的障害 (n=344)	精神障害 (n=398)	障害児 (n=180)	発達障害 (n=112)	難病 (n=39)
10 歳代	0.5	0.6	1.8	0.0	0.0	0.0
20 歳代	1.9	0.9	4.3	3.3	0.9	0.0
30 歳代	5.3	1.7	8.8	27.8	18.8	5.1
40 歳代	11.6	11.3	12.1	57.8	44.6	17.9
50 歳代	21.9	25.6	18.3	11.1	23.2	15.4
60 歳代	29.3	29.4	28.4	0.0	9.8	28.2
70 歳以上	26.4	25.9	21.6	0.0	0.9	30.8
わからない	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0
無回答	2.7	4.7	4.5	0.0	1.8	2.6

③主たる介助者の性別



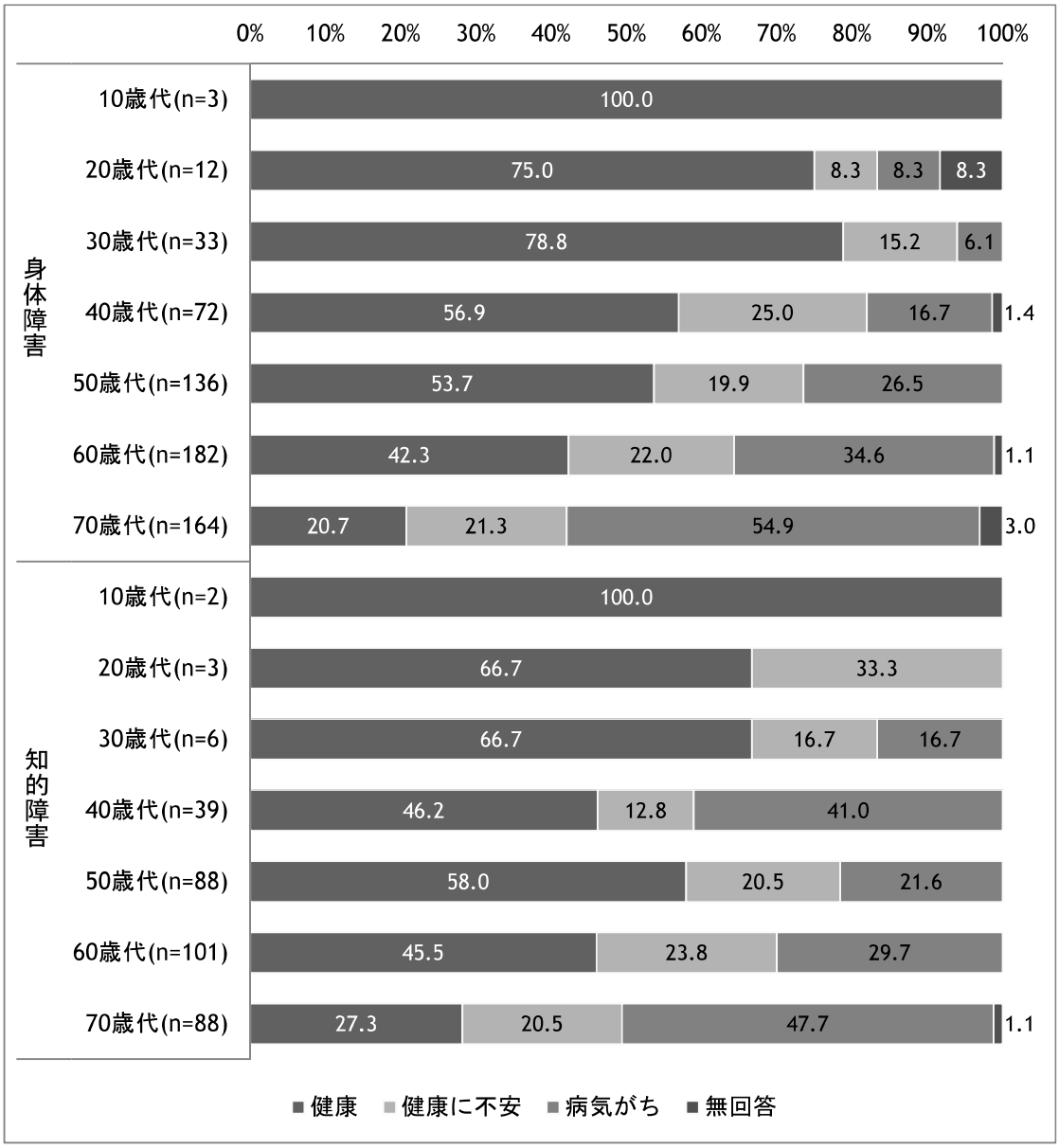
④主たる介助者の健康状態

「健康に不安がある」「病気がち」の割合が高くなっている。



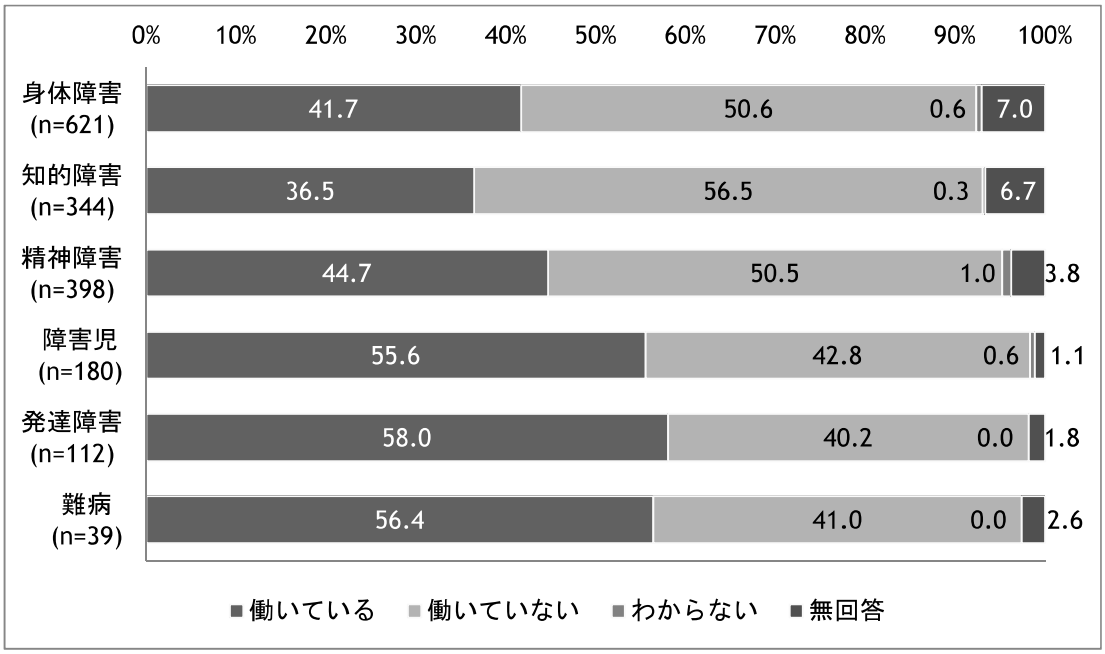
【介助者の年齢と健康状態の関係（身体障害者・知的障害者のみ）】

年齢が上がるに連れて、健康面での課題を抱える介助者が増えている。



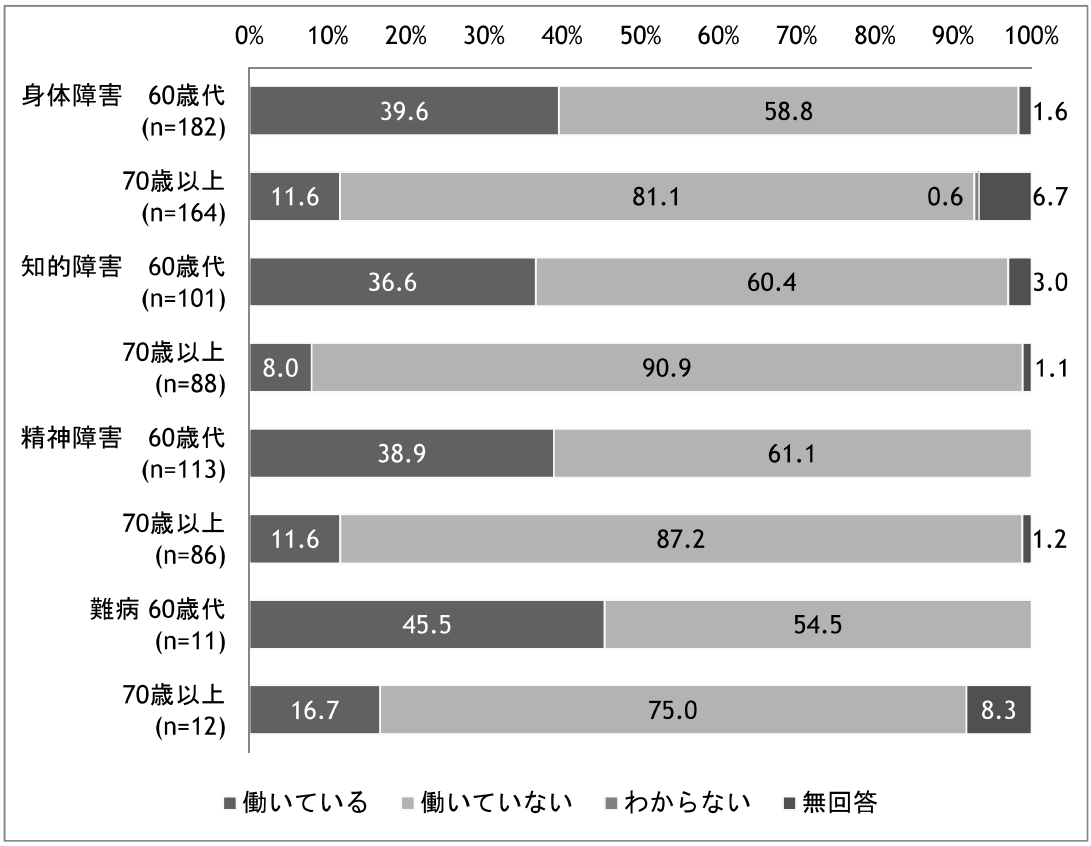
⑤主たる介助者の就労状態

全体の４～５割が就労しつつ介助をしている。



【主たる介助者の就労状態（60 歳以上）】

60 歳以上の介助者に限定すると 60 歳代の４割程度、70 歳代の１割程度が就労していた。



⑥主たる介助者不在の時の介助者

主たる介助者が不在の場合は、他の家族や親族が代わって支援しており、「必要だがいない」という回答も多かった。

(%)

	身体障害 (n=621)	知的障害 (n=344)	精神障害 (n=398)	障害児 (n=180)	発達障害 (n=112)	難病 (n=39)
他の家族や親族	43.6	50.3	38.7	85.6	75.9	56.4
隣人・友人	2.9	2.0	3.0	0.0	0.9	2.6
ホームヘルパー	6.6	2.9	2.0	0.6	0.0	12.8
施設の職員	5.6	15.1	3.8	5.0	5.4	0.0
民間介助サービス（自費）	1.6	0.3	0.5	0.0	2.7	0.0
ボランティア	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7.9	5.2	9.3	2.2	4.5	7.7
必要だがいない	19.3	15.4	33.4	6.1	8.9	17.9
わからない	1.3	0.6	1.8	0.0	0.0	0.0
無回答	11.1	8.1	7.5	0.6	1.8	2.6

６）これから一緒に暮らしたい人

「夫婦」や「親や子ども」との暮らしを望む声が多くなっている。

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
１位	夫婦で (29.6%)	わからない (26.9%)	親や子どもなど家族と (45.0%)	夫婦で (53.9%)
２位	親や子どもなど家族と (20.2%)	親や子どもなど家族と (24.9%)	わからない (25.8%)	親や子どもなど家族と (11.2%)
３位	わからない (15.4%)	一人で (11.8%)	友達や仲間と (7.5%)	わからない (9.0%)
４位	一人で (14.3%)	友達や仲間と (9.2%)	一人で (6.7%)	兄弟姉妹と (2.2%)

７）これから暮らしたい場所

グループホームや民間賃貸住宅などでの暮らしよりも、家族の持家や自分自身の持家で暮らすことを希望する人が多い。

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
１位	自分自身の持家 (33.3%)	家族の持家 (29.3%)	家族の持家 (47.5%)	自分自身の持家 (38.2%)
２位	家族の持家 (23.5%)	グループホーム (14.7%)	自分自身の持家 (9.2%)	家族の持家 (29.2%)
３位	民間賃貸住宅、アパート (10.4%)	民間賃貸住宅、アパート (14.2%)	民間賃貸住宅、アパート (9.2%)	公共賃貸住宅 (公営やＵＲなど) (12.4%)
４位	公共賃貸住宅 (公営やＵＲなど) (11.1%)	入所型の施設 (14.0%)	グループホーム (9.2%)	民間賃貸住宅、アパート (5.6%)

備考）詳細は次表参照

【これから暮らしたい場所（詳細）】

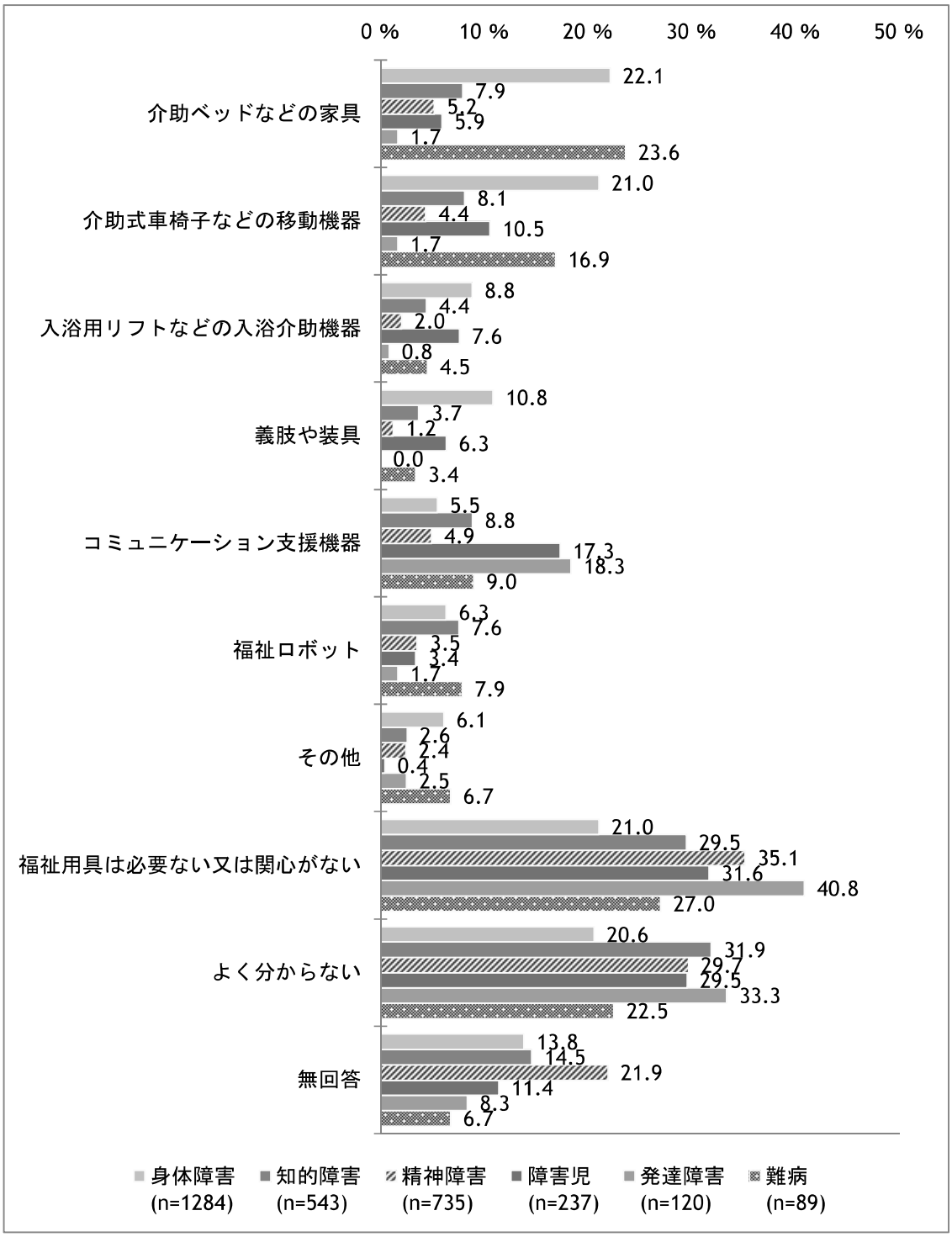
(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
自宅	78.3	57.9	69.2	85.4
あなた自身の持家	33.3	4.8	9.2	38.2
家族の持家	23.5	29.3	47.5	29.2
民間賃貸住宅	10.4	14.2	9.2	5.6
公共賃貸住宅	11.1	9.6	3.3	12.4
寮、社宅	0.3	0.2	2.5	0.0
グループホーム	2.4	14.7	9.2	1.1
入所型の施設	8.5	14.0	2.5	2.2
その他	2.6	3.3	5.0	2.2
わからない	0.9	1.8	3.3	0.0
無回答	6.9	8.1	8.3	9.0

８）福祉用具について

①必要性を感じる、または関心のある福祉用具

身体障害者や難病患者は介助のための家具や移動機器に、障害児や発達障害者は、コミュニケーション支援機器に対しての関心がみられた。　〈複数回答〉

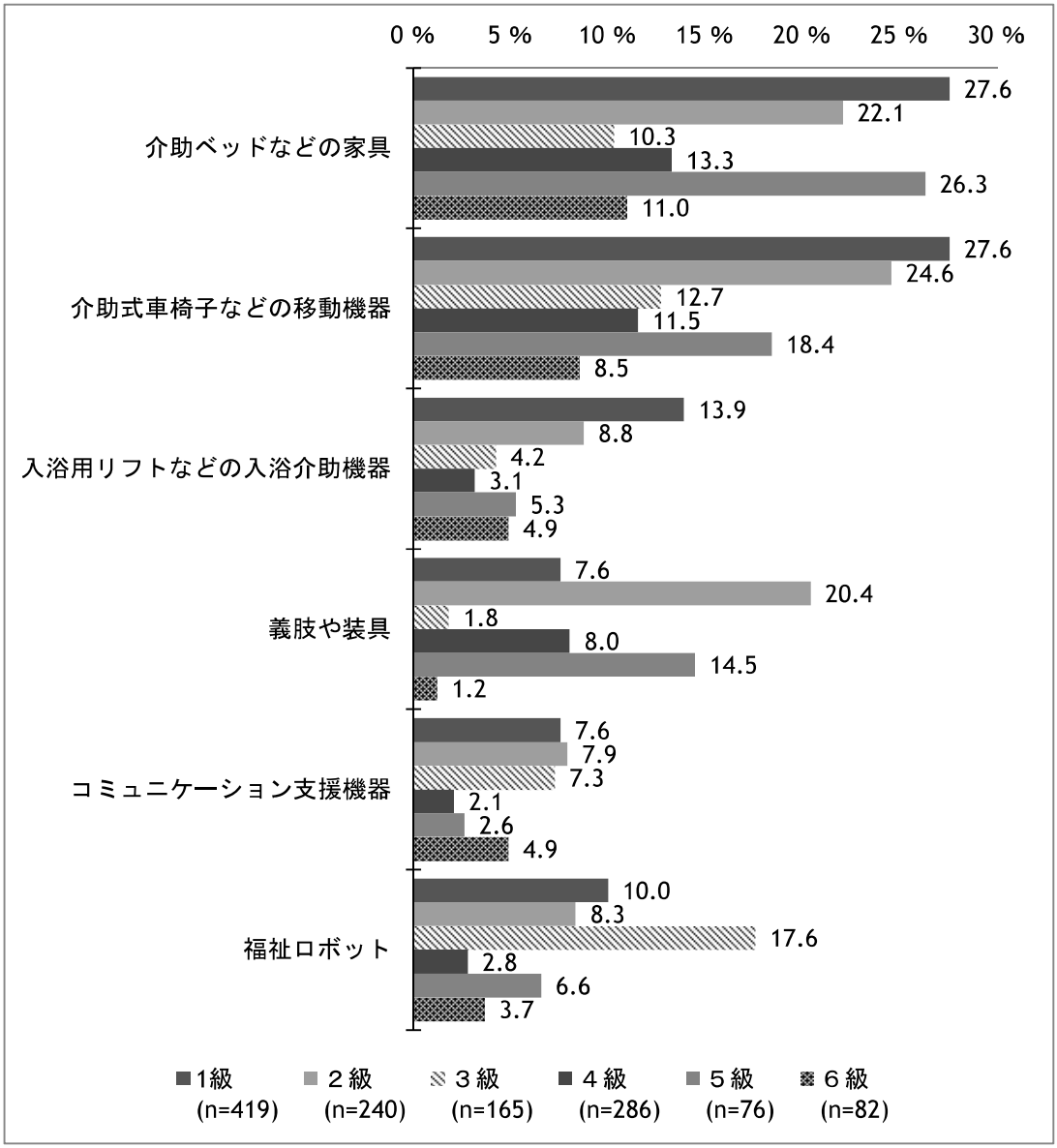


「その他」の具体例　■杖　■移動用リフト　■手すり　■補聴器　■障害者用アプリ

【必要性や関心のある福祉用具と障害程度の関係（身体障害者のみ）】

障害程度によっても、福祉用具の必要性や関心の大きさが異なっている。障害程度が重いほど福祉用具に対する必要性や関心も強い。義肢や装具などは１級よりも２級の人の方が必要性・関心が高くなっている。

〈複数回答〉



備考）「その他」「関心がない」「わからない」「無回答」は省略している。

②福祉用具のどんなことに関心があるか

福祉用具については、費用や管理費、性能についての関心が強かった。また一部でレンタル制度への関心もみられた。

〈複数回答〉

	身体障害 (n=597)	知的障害 (n=155)	精神障害 (n=116)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=24)	難病 (n=41)
1位	費用、管理費 (43.2%)	費用、管理費 (41.3%)	費用、管理費 (44.0%)	費用、管理費 (85.2%)	種類 (41.7%)	費用、管理費 (53.7%)
2位	種類 (38.9%)	性能 (40.0%)	性能 (35.3%)	性能 (52.2%)	費用、管理費 (37.5%)	種類 (46.3%)
3位	性能 (38.4%)	種類 (38.7%)	レンタル制度 (30.2%)	種類 (52.2%)	最新情報 (29.2%)	性能 (43.9%)
4位	レンタル制度 (32.0%)	最新情報 (31.6%)	種類 (25.9%)	最新情報 (49.3%)	必要な手続き (29.2%)	レンタル制度 (41.5%)
5位	最新情報 (30.2%)	レンタル制度 (25.8%)	必要な手続き (24.1%)	必要な手続き (49.3%)	性能 (20.8%) レンタル制度(20.8%)	最新情報 (39.0%)

「その他」の具体例

■介護区分で利用が決まるのである程度フリーにしてほしい

■筋力の劣えに対するリハビリ

■どのような道具があるのかわからない。便利なものがあるならば知りたい、利用したい。

■ロボットがほしい

■感覚統合

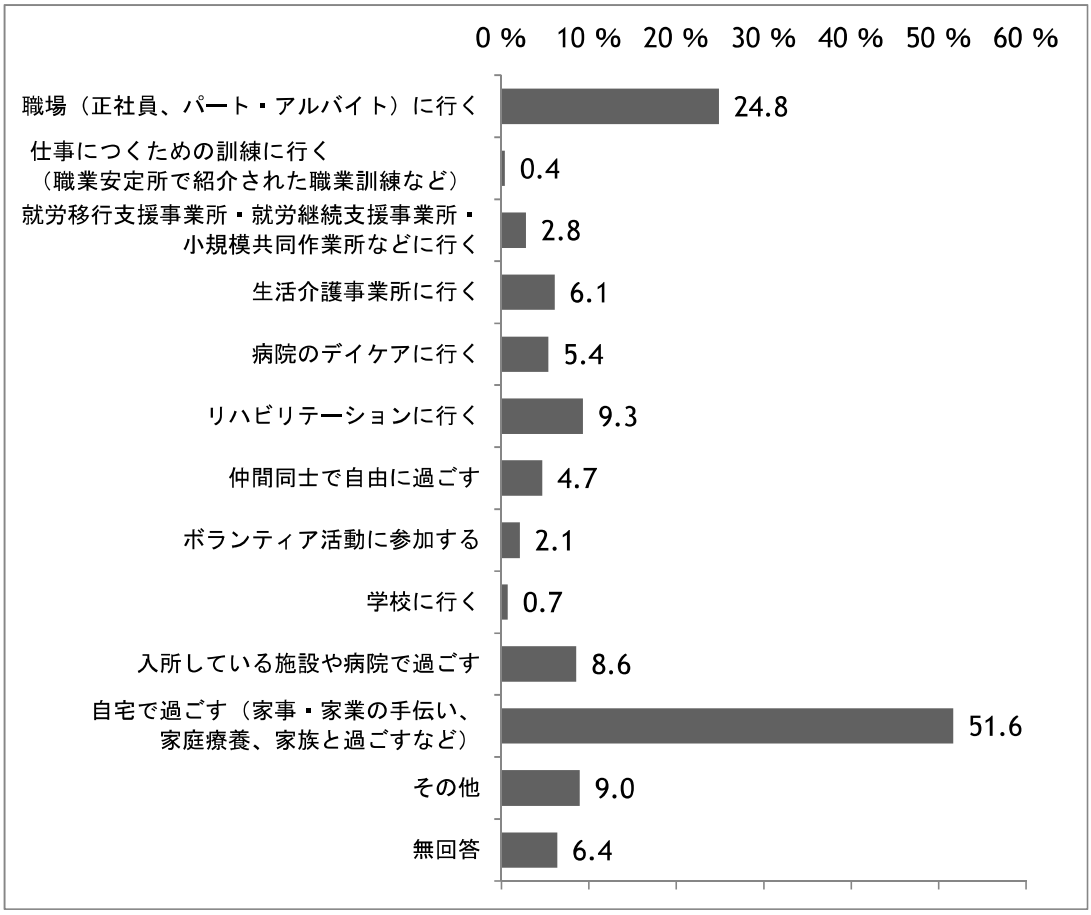
■簡単な辞書など

９）日中の過ごし方

① 身体障害者

身体障害者の日中の過ごし方を見ると、自宅で過ごす人の割合が高くなっている。

〈複数回答〉(n=1284)



「その他」の具体例

■透析

■姉の介護

■運動　ジョギング

■介護保険でデイサービスに行っている。

■家庭菜園

■市民センターの書道教室に通っている。

■軽い仕事は許可が出てるけどその他の重労働は止められている。でも年金が少ないので少しでもと思って無理して働いている。

■ゴルフ月 3～4 回。

■歯科、脳外科受診外来

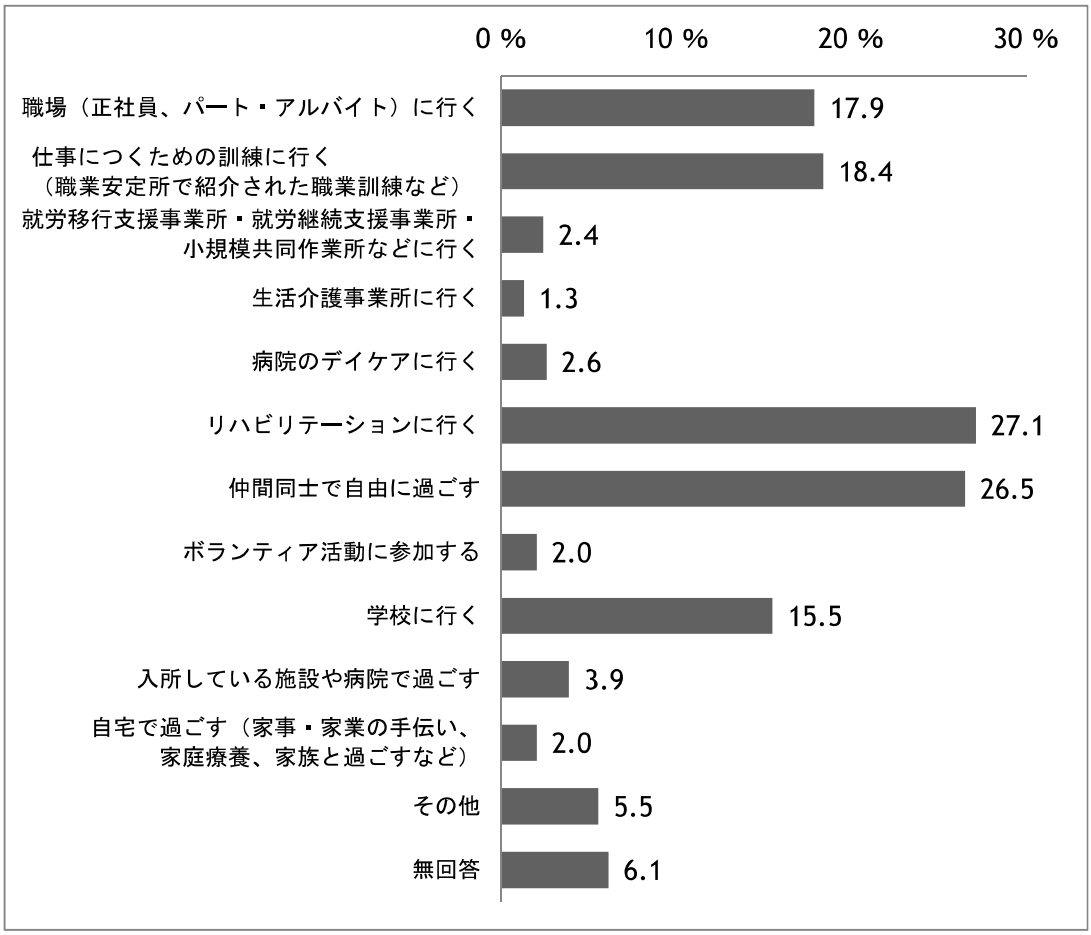
■仕事さがし

■施設でテレビを観て過ごしている。

② 知的障害者

知的障害者の場合、「リハビリテーションに行く」「仲間同士で自由に過ごす」「職業訓練に行く」「職場に行く」など外での活動が多い傾向がみられる。

〈複数回答〉(n=543)



「その他」の具体例

■仕事を見つけるため、ハローワークへ行ったり求人の雑誌を取りに行ったりしている。

■市民センター

■ショートステイ・ヘルパーと買い物・病院・リハ・PT・歯科・皮膚科

■月に 12 日ショートステイを利用している

■定期的な受診のため、月 1.2 回病院へ。帰省時は家族で外出したり、家でゆっくり過ごす。

■デイサービスに行く

■認知症対応型のデイサービスに週二回行く。

■病院

■ヘルパーと外出

■休みの時は、テレビを見たり買い物や散歩に行く。（母親と）

■レクレーション（ぬり絵）